

研究会開催通知

(昭和 55 年 8 月 15 日～9 月 30 日)

研究会	日	時	会場	備考
計算言語学	8月21日(木)	13:00～17:00	機械振興会館	前号参照
マイクロコンピュータ	9月1日(月)	13:30～17:00	同上	下記参照
ソフトウェア工学	9月5日(金)	14:00～17:00	同上	同上
データベース管理システム	9月11日(木)	13:30～17:00	同上	同上
人工知能と対話技法	9月17日(水)	11:00～17:00	第 32 森ビル	同上
計算機アーキテクチャ	9月17日(水)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
コンピュータビジョン	9月18日(木)	10:30～17:00	電 総 研	同上
分散処理システム	9月18日(木)	13:30～17:00	第 32 森ビル	同上

◆ 第 13 回 マイクロコンピュータ研究会

(主査: 森 亮一, 代表幹事: 田島守彦)

- 日 時** 昭和 55 年 9 月 1 日 (月) 午後 1 時半～5 時
- 会 場** 機械振興会館 地下 3 階 1 号室
 [東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 都営 6 号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 等々力-東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]
- 議 題**
- (1) 日本語ワードプロセッサ 白須賀督行 (シャープ)
 [概要] 8ビットマイクロプロセッサによる, タブレット入力インクジェットプリンタ搭載の日本語ワードプロセッサ.
 - (2) 版下作成工程の省力化におけるマイクロコンピュータの応用
市村三和子 (秀工舎), 山口隆男 (電機大)
 [概要] 印刷物の版下を作成するための自動製図システムを中心に, マイクロコンピュータの応用例を紹介する.
 - (3) キャプテン実験システムとマイクロコンピュータ
隈元崙夫 (電電公社)
 [概要] キャプテンシステムは昨年 12 月郵政省と電電公社が共同で実験を始めた, テレビと電話を利用した情報提供サービスである. このシステムには, センタ, 端末の各所でマイクロコンピュータが多用されている. 実験の概要とマイクロコンピュータの応用について, あらましを報告する.
 - (4) 映像情報とマイコンの接点
川畑正大 (生活映想情報システム開発協会)
 [概要] 虚実混在した情報が飛び交う. 確認は耳目両器官であるのが最善だ. Hi-OVIS にマイコンが組込まれた時, 情報は完全に個々の所有

するところとなる。

◆ 第15回 ソフトウェア工学研究会

(主査：国井利泰，代表幹事：大野尙郎，原田賢一，斉藤信男)

日時 昭和55年9月5日(金)午後2時～5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)

議題 (1) DNM: Dynamic Nesting Method

北川博之，国井利泰(東大・理)

[概要] 関係データベース上でユーザに対し非正規化リレーションの動的定義を許すデータ応用記述用ツールについて述べる。

(2) デザイン転換のための機構 山口和紀，国井利泰(東大・理)

[概要] 技術オフィスのデザイン展開と事務オフィスの構造を持つ表を統一的に取り扱える機構を考案した。

(3) SID: A System for Interactive Design

原田 実，国井利泰(東大・理)

[概要] 再帰グラフ形式論に基づいて，システムの設計過程を支援し，かつその共有化を目指すシステムについて述べる。

◆ 第21回 データベース管理システム研究会

(主査：穂鷹良介，代表幹事：植村俊亮)

日時 昭和55年9月11日(木)午後1時半～5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)

議題 (1) 富士写真フィルムにおけるデータベース

中井六郎(富士写真フィルム)

[概要] 富士フィルムにおけるADABASの導入経緯から適用業務事例について述べる。

(2) 分散型データベースシステム JDDBSにおけるスキーマ層設計とアクセス問題について 滝沢 誠(情開協)

[概要] 分散型データベースシステム JDDBSにおけるスキーマ層の設計問題と問合せの処理問題について論じる。

(3) Data Base Systemにおける排他制御のスケジュール方法の評価

松下 温，辰己俊文，川村克彦，川上 英(沖電気)

[概要] データベースシステムにおける2種類の排他制御方式についてのシミュレーションによる比較評価について述べる。

◆ 第17回 人工知能と対話技法研究会

(主査：田中幸吉，代表幹事：白井良明，田村進一)

日時 昭和55年9月17日(水)午前11時～午後5時

会場 第32森ビル 地下2階第一会議室

[東京都港区芝公園 3-4，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，都営6号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷ー東京タワー線東京タワー，等等力ー東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車，機械振興会館並び浜松町寄り徒歩

- 1分, 東京タワー向い, Tel. 03 (591) 1351 (大代表)]
- 議 題 (1) 三次元自由形状モデルとその応用
 木村文彦 (東大・工), 穂坂 衛 (東大・宇宙研)
 [概要] 新しい三次元自由形状設計制御理論に基づき, 新たに開発した自由形状モデル生成処理システムの概要および CAD/CAM へのいくつかの応用例を述べる.
- (2) 日本語単文の音声認識システムについて
 関口芳廣, 来嘉 宏, 重永 実 (山梨大・工)
 [概要] 単文を扱える構文規則を状態遷移図で, 意味を意味ネットワークで表わして連続音声入力を可能にした.
- (3) 証明経路式による定理証明の制御 松本裕治, 佐藤泰介 (電総研)
 [概要] 正規的な経路式によって定理証明の制御構造を表現する手法について考察する.
- (4) Horn 文からのプログラムの自動合成
 佐藤泰介, 松本裕治 (電総研)
 [概要] Horn 文を使った refutation を“外側”から記述することにより, 可能な証明図全体を表わすプログラムが得られる. semantics は Dynamic Logic に準ずる.
- (5) PROLOG によるゲームプログラムの構成 田島守彦 (電総研)
 [概要] 述語論理言語 PROLOG によりプログラムを簡潔に構成する. 知識を統一的に表現し獲得させる.
- (6) 知識表現のための多層論理 大須賀節雄 (東大・宇宙研)
 [概要] 実用的知識型システムにおける要求条件を明確にし, これを満たす可能性のある知識表現形式として, 多層論理と名づけた述語論理の一変形式と, それによる知識表現について述べる.

◆ 第31回 計算機アーキテクチャ研究会

(主査: 石井 治, 代表幹事: 有澤 博, 内田俊一)

- 日 時 昭和 55 年 9 月 17 日 (水) 午後 1 時 ~ 5 時
- 会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
- 議 題 (1) アレイ計算機における PE 間結線構造と転送量について
 成瀬 正, 中野 治, 雨宮真人 (電電・武蔵野通研)
 [概要] アレイ計算機上で効果的に解けるいくつかの基本的問題のデータ参照形態を解析し, 種々の単段結線構造アレイ計算機上でそれらを実行した場合のデータ転送量を評価する.
- (2) インテリジェントファイル制御機構の実験システムについて
 石塚拓雄, 宮寺博男, 高橋英夫 (日立)
 [概要] 汎用のディスク制御装置に, データ検索機能を付加したインテリジェントファイル制御機構の検索方式, ハードウェアとソフトウェアのインタフェースおよび従来方式との性能比較について述べる.
- (3) チャネル結合によるネットワークシステムの構成

横山雅俊, 小川 均, 田中幸吉 (阪大・基礎工)

〔概要〕 計算機間をチャンネル結合し, ターミナルにマルチマイクロプロセッサを用いた, 分散形ネットワークシステムの構成例 (PFU-1500, I-8086 等を使用) について述べる.

(4) ミニコン従属型高速信号処理プロセッサ

大塚武嗣, 福田秀三, 篠崎 洋 (沖電気)

〔概要〕 基本演算ルーチンと称する内蔵マイクロルーチンを, チャンネルコマンドのチェイニング方式を利用して複数個組合せ実行することにより, 信号処理演算を実現することを特徴としたミニコン従属型信号処理プロセッサについて紹介する.

(5) 並列画像処理計算機 PIPE の 3 次元画像メモリ構成

佐々木繁, 田山典男 (岩手大・工)

〔概要〕 筆者らは, 高速画像処理をめざして “並列画像処理計算機 PIPE” の開発を進めている. 本稿では, 複数枚の画像を格納する “3 次元画像メモリ” について, 機能とメモリアーキテクチャ, 設計と使用法を紹介する.

※ 今回は, 情報処理学会第 21 回全国大会で発表されたアーキテクチャ関連研究のうちから, より詳細に発表して戴くことで, 広く会員の研究の参考となるものを選び, 発表をお願いしました.

尚, 次回は昭和 56 年 2 月に, 電子通信学会電子計算機研究会との共催にて, 広島で開催する予定です.

◆ 第 8 回 コンピュータビジョン研究会

(主査: 福村晃夫, 代表幹事: 高木幹雄, 鳥脇純一郎, 田村秀行)

日 時 昭和 55 年 9 月 18 日 (木) 午後 1 時～5 時

会 場 電子技術総合研究所 中会議室 (C 棟 713 号室)

[茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4, 国鉄: 常磐線荒川沖駅下車 (上野駅 8:45 発 (普通) 19 番線, 荒川冲着 9:46), バス: 関東鉄道バス筑波大中央行, 並木 2 丁目下車 (駅前発 9:52, 約 10 分乗車), 徒歩約 5 分, Tel. 0298-54-5491]

議 題 (1) コマンド・シーケンスによる図形の生成・格納・表示

田中 稔, 田中幸吉 (阪大・基礎工), 中浜修造 (川崎重工)

〔概要〕 簡単な図形を定義するコマンド, 編集コマンド, 表示コマンドなどの系列により図形を定義し, 格納, 表示するシステムについて報告する.

(2) 2次元ヒストグラム・シャープニングに基づく画像のセグメンテーション
松下俊夫 (電総研)

〔概要〕 2次元ヒストグラムのシャープニング結果に基づいて特徴空間を分割し, 画像のセグメンテーションを行う方法を紹介する.

(3) 開口面合成レーダ (SAR) の画像処理

能美 仁, 加藤史朗, 伊藤暢康, 柳瀬武紀,
内藤憲二, 花木真一 (日電)

〔概要〕 画像処理の中でも特に膨大な処理量を有する SAR の画像処理について、マイクロ波ホログラムからの画像再生処理とコンピュータでの実行上の問題を中心に述べる。

(4) 一般テクスチャの適応的解析 富田文明 (電総研)

〔概要〕 一般的なテクスチャを解析する場合に、テクスチャの性質に従って適応的に統計的手法と構造的手法を選択、あるいは両手法を併用する方法について述べる。

(5) ドラム式画像入力装置の性能評価実験
大下 弘 (名大・工), 鳥脇純一郎 (豊橋技科大)
福村晃夫 (名大・工)

〔概要〕 ドラム式画像入力装置の性能を種々の観点から評価した結果を示し、さらに、本学会イメージプロセッシング研究連絡会によるドラム型装置試験方法案も含めて、装置の試験方法について検討する。

(6) 画像処理ハードウェアの動向
——Workshop on New Computer Architectures
and Image Processing 参加報告——

木戸出正継 (東芝・総研)

〔概要〕 去る6月2日～5日イタリアで開催された表記の Workshop の概要を報告し、画像処理向の専用プロセッサの動向について述べる。

(7) 電総研のコンピュータビジョン関連研究室見学。

◆ 第6回 分散処理システム研究会

(主査: 元岡 達, 代表幹事: 田中英彦, 村上國男)

日時 昭和55年9月18日(木)午後1時半～5時
会場 第32森ビル 地下2階第一会議室 (所在地は前記参照)

議題 (1) 分散処理システムのプロセス間通信とプロセスの故障対策
前川 守 (東大・理)

〔概要〕 分散処理システムにおけるプロセス間通信の方式について整理し、時にプロセスの故障の場合について考える。

(2) DCNA のジョブ転送プロトコル
村田賢太郎, 小川 裕, 宮澤正幸 (電電・横須賀通研)
田村治男 (日電), 池田 裕 (日立),
矢野秀一郎 (富士通), 辰己俊文 (沖電気)

〔概要〕 DCNA で設定した基本概念に則り、ジョブ転送を実現するのに必要となる技術、特に設計方針、基本概念、プロトコル規定内容等について述べる。

(3) オフィス・オートメーションに関する一考察
永井義裕, 服部光宏, 熊野喜一 (日電)

〔概要〕 オフィス業務の定量的な調査分析の結果に基づいて、分散システムとしてのオフィス・オートメーション・システムの機能およびデータの分散形態について論じ、そのシステムイメージに言及する。

(4) DACS 第3期システム

東 文雄, 長山久喜, 川口絃司 (国鉄)

〔概要〕 DACS システムの分散処理の概要, サブネットの構成および運用状況について報告する.

(5) 分散処理システムにおける遠隔地支援に関する一考察

田中正二, 浅野正一郎, 水町守志, 野村民也 (東大・宇宙研)

〔概要〕 動的負荷配分により高信頼化を達成する遠隔地支援システムの稼働率, 処理性, 応答性について論ずる.

◆ 分散処理システム研究会

次回は, 12月に大阪で開催する予定です.

第 22 回全国大会の開催について

全国大会は来年から年 2 回、春と秋に開催されることになり、春の第 22 回全国大会は下記により開催されます。

つきましては、次回本欄に一般講演申込み要領をお知らせいたしますので、ご注意ください。なお、論文申込みの締切りは 11 月末となる予定です。

記

日 時 昭和 56 年 3 月 24 日(火), 25 日(水), 26 日(木)

会 場 学習院大学 (豊島区目白)

「情報処理叢書」の頒布について

前号本欄にて会告しましたように、本叢書第 1 号として、データベースマシン (植村, 前川共著) が発行されました。これにつづき、8 月末までに下記 3 編が続刊の予定です。できるだけ早目に、一括してご注文ください。(非会員はオーム社書店扱いですので最寄りの書店へ申込みのこと。)

(1)	書 名	著 者 名	頁数	会員特価	(定 価)
	データベースマシン	植村俊亮・前川 守	170	1,500円	(1,900円)
	データベース理論	有澤 博	104	1,200円	(1,500円)
	コンピュータネットワーク技術	猪瀬 博監修 苗村憲司・田畑孝一・浅野正一郎	114	1,200円	(1,500円)
	医療情報学	開原成允・稲田 紘	192	1,500円	(1,900円)

(2) 申 込 先 情報処理学会「情報処理叢書」係

(3) 払込口座 振替口座 東京 5-83484

銀行口座	三 菱 (普)	030-0000608	} 各虎ノ門支店
	第一勧業 (普)	1013945	
	住 友 (普)	40879	
	富 士 (普)	993632	
	三 井 (普)	4298739	

第 8 回世界コンピュータ会議教育セミナーのお知らせ

本年 10 月に開催されます第 8 回世界コンピュータ会議(IFIP Congress 80)の一環として下記の教育セミナー(Tutorial Seminar)が開催されます。またこれは毎年10月に行われる情報化週間の行事を兼ねており、世界コンピュータ会議への登録の有無にかかわらずご参加いただけます。定員制ですでお早めにお申し込み下さい。

記

日 時	1980 年 10 月 2 日(木) 13:30~16:30 10 月 3 日(金) 10:00~17:00
場 所	全共連ビル(東京都千代田区平河町 2-7)
テ ー マ	New Computer Architecture
講 師	Prof. J. B. Dennis, MIT Prof. Arvind, MIT <同時通訳あり>
費 用	15,000 円(レセプション出席の際は 20,000 円)
定 員	150 名
講演内容	

データフローアーキテクチャは LSI に適し、しかも高性能が得られるアーキテクチャとして最近特に注目を集めておりますが、本セミナーは、その研究の世界的な中心人物であるマサチューセッツ工科大学(MIT)の Dennis, Arvind 両教授を招いて行われるものであります。

Dennis 教授はプロジェクト MAC 等での計算機システムの研究開発で著名であり、また今回の講演の主テーマであるデータフローマシンの創始者であります。

Arvind 教授は MIT に移られる前はカリフォルニア大学アーバイン校での有名な U-インタプリタに代表されるアーバイン・アーキテクチャの開発者として知られております。

本セミナーはそのデータフローアーキテクチャに的をしぼり、実現が可能になった 3 つのシステムについて、その設計、プログラミング、応用について詳しく述べます。3 つのシステムとは、MIT における Cell Block アーキテクチャ、Data Flow Multi-processor、そして U-インタプリタの実現を目指した汎用アーキテクチャであります。これらシステムについて、ハードウェア構成の問題、ハードウェア設計、命令セットの設計、機械語レベルでのプログラム構造、VAL や ID 言語で書かれたソースプログラムからのコンパイルの方式、コード生成法、コード最適化等について述べます。さらには大規模なデータ構造の処理の仕方や応用についても述べます

お申込は別途お配りしてあります第 8 回世界コンピュータ会議の Registration form、あるいは大口登録用紙のご利用が可能ですが、50 円切手同封の上、下記にご連絡下されば、申込書をお送り致します。

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館内
(社)情報処理学会

第 8 回世界コンピュータ会議事務局 教育セミナー係

電話 (03) 434-0079

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

- (1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判
- (2) 純学術研究発表誌とし, Paper と Short Note を募集する。
 - (i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき, 欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。
 - (ii) Short Note (2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて, 採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

- (1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い, 1行65ストローク, ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し, パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で, 欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体, 数式中の記号は斜体(イタリック)となる。
- (2) 査読の都合上, タイトル, 氏名, 所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。
 - (i) Paper のアブストラクト——200語以内
 - (ii) Short Note のアブストラクト——50語以内
- (3) 図表(写真を含む)は, 完成図(そのまま縮小製版できるもので, 縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお, 文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし, 説明文は別紙にまとめてタイプし, 本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。
- (4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

- (1) コピー4部を送付する。
- (2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として, ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000